

東地区に認定こども園（ふたば園）を設置した経緯

豊能町は、昭和 52 年の町発足当時の人口は約 8,500 人であったが、大阪市内まで約 1 時間で通勤できることから、ベッドタウンとして急速に開発が進み、平成 8 年 3 月には、約 27,500 人に達した。しかし、その後は、大規模な住宅開発の完了、成人の町外への流出、少子化により人口が減少した。

平成 17 年時には 2 つの保育所（双葉保育所、吉川保育所）と 3 つの幼稚園（東能勢幼稚園、吉川幼稚園、光風台幼稚園）により就学前児童の保育・教育を担っていたが、少子化の進行により双葉保育所と 3 つの幼稚園の入所入園率は約 50%となっていた。一方、吉川保育所では定員に達する状況になっていた。

このような状況下から平成 17 年 12 月に「豊能町における幼児教育のあり方」を考える内部研究会が設置された。なお、当時は、保育所の所管は生活福祉部、幼稚園は教育委員会であった。

平成 18 年 4 月から生活福祉部・教育委員会での内部検討会が実施され、他市町への視察、情報収集、財政状況等の検討の結果、平成 19 年 10 月に「豊能町立保育所・幼稚園の今後のあり方検討会」が設置された。

平成 19 年 10 月 10 日に豊能町長及び豊能町教育長から豊能町立保育所・幼稚園の今後のあり方検討会委員長あて諮問書が提出された。

諮問内容、趣旨は次のとおりである。

（諮問内容）

これからの豊能町の保育所・幼稚園の保育・教育施策のあり方について

1. 子どもの数の減少に伴う就学前保育・教育の施設のあり方について
2. 特色ある保育・教育の内容について

（諮問の趣旨）

- ・ 人口の減少に伴い就学前児童数も減少しており、双葉保育所や 3 幼稚園において定員に満たない入所児童数となっていたこと。入所入園率は約 50%であった。
- ・ 共働き世代の増加等により、平成 18 年度以降、吉川保育所は定数を超える状況。
- ・ 町財政の逼迫により、必要とされる幼稚園・保育所施設への新たな財政負担を積極的に行える情勢ではないこと。

平成 20 年 10 月 28 日に豊能町立保育所・幼稚園の今後のあり方検討会委員長から豊能町長及び豊能町教育長に諮問に対する提言書が提出された。

東地区における提言は次のとおりである。

- ・ 双葉保育所と東能勢幼稚園は、将来の就学前人口数の減少に伴う入所・入園者数の減少が推測され、集団としての適切な規模を保つことが困難と考えられる。
- ・ 保育ニーズの多様化も見込まれていることから、2施設を統合して保幼一元化施設にすることを提言。
- ・ 統合時期は2施設の入所（園）数が120人を割ると推測される時期が望ましい。

この提言を踏まえ、平成23年4月1日、東地区において双葉保育所と東能勢幼稚園を統合し、幼保連携型認定こども園として「認定こども園ふたば園」が設置された。